

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000042		
法人名	医療法人 双樹会		
事業所名	グループホーム サマリヤの家		
所在地	愛知県新城市矢部字広見55番地1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=2394000042-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出支援等の支援はできていないが、少しでもご利用様が充実した生活を送れるように、屋内で出来る支援を模索したり、体力作りに力を入れている。体力作りに関しては、今年度より生活機能向上連携加算を取るよう併設される老人保健施設との連携も図っており、ケアプランにもPTからの指示を取り入れ、今まで以上に体力の維持ができています。
また、地域との連携にも力を入れており、認知症カフェやRUN伴の他、キャラバンメイトとして認知症サポーターの普及にも努めている。地域との交流に関しても、こども園との交流を絶やさない為に紙芝居を作成したり、他施設とリモートで交流したりなど、コロナ禍ならではの交流を図っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者が自立した生活を送ることを目指しながら、職員と共に楽しく暮らせるように、出来ることを奪わない支援に取り組んでいる。コロナ禍によって外出が制限される中、室内で出来ることに力を入れ、利用者の体力維持に向けて前向きに取り組んでいる。
ホームと地域との関わりにも前向きに取り組み、認知症カフェや認知症サポーター養成講座の講師を引き受けるなど、地域貢献にも努めている。その他にも、地域のこども園との交流や他施設とのリモートでの交流に努めており、コロナ下であっても、利用者を第一位に置いた支援を提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際に理念を毎回唱え、実践に繋がれるように、その日のリーダーが現場に指示を出している	ホームの理念を朝礼にて唱和し、職員に周知している。日ごとにリーダーを定め、利用者の状況を見ながら理念に基づいた指示を出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としてサマリヤの家の存在を知っていただけるように、積極的に地域との交流を図っている。	コロナ禍により、利用者が関わることのできる地域行事が中止され、交流機会を持つことが難しい状況である。継続して取り組んできた認知症カフェや認知症サポーター養成講座なども中止している。	コロナ禍の現在、外出支援も含め様々な制約を受ける中で、ホームとして出来ることを支援しており、収束後の取組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一員として他事業所と協力し、認知症サポーターの育成や認知症サポーターのステップアップ講座の開講などを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より地元の高校に運営推進委員になっていただき、新たなサービスの向上や、取り組みを検討中	コロナ下ではあるが、運営推進会議は可能な限り対面で行うようにしている。ホームの近況報告や意見交換を行い、会議に地元の高校生を招くなど、会議運営に新たな試みがある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症支援推進委員として、市役所や地域包括支援センターだけでなく、その他関連機関とも連絡を取り合い、サービスの向上に努めている	現在はコロナ禍で中止されているが、認知症支援のために市の委員会に参加したり、認知症サポーター養成講座の講師を努めるなど、行政の活動に積極的に参画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から、玄関の施錠は行っておらず、気軽に外まで出れる環境である。また、身体拘束を行わないように対策委員会を設け、定期的に勉強会を行っている	身体拘束について、職員の理解を深めるために定期的に勉強会を開催している。帰宅願望の強い利用者に対しても、施錠に頼らず職員が付き添うことで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を定期的に行う機会を設け、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用されている方はいらっしゃるが、後見人制度に関して学ぶ機会は過去には研修に参加したりしていたが、最近では設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約を交わす際は、家族が納得いくように説明を行い、利用者には不安等が無いように説明をし、だまされ生活するのではなく、出来る限り納得した上で生活していただけるように説明する		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見を運営に反映させ、運営推進会議の場で、推進委員に周知していただき更なる質の向上に努めている	家族向けの便りが定期的に発行され、利用者毎に担当職員が個別の情報を提供している。家族面会は、県の指針に沿った対策を講じた上で行っている。面会時や電話などで意見や要望を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場からの意見を反映させるために、管理者か代表者へ意見を言う機会を設けている	ユニット会議や全体会議などで、職員の意見・要望を聞くようにしている。意見や要望に関しては、可能な限りホーム運営に反映させ、必要に応じて個別面談も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場の意見を直接聞く機会はないが、管理者から本部に直接意見を伝える機会はある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、コロナ禍の為、リモートでの研修のみ参加している。コロナが落ち着いたら、施設内研修から再開していく予定である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナ禍の為、連絡協議会の会議もリモートで行っており、職員同士が直接交流する機会が無いが、管理者同士は意見交換などが出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が納得して入所されるのが理想的だが、そういった方は少ない。入ってから本人様が居心地の良い生活を送れるように空間作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声に耳を傾け、家族の要望を聞き、サービスに繋げられるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みの時点で本人様が必要とするサービスがなんなのかをご家族様と一緒に考え、自施設への入所を勧めるだけでなく、他のサービスも提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上げ膳据え膳の生活ではなく、できることを自身で行って生活できる支援を提供する為、家事などを業務として終わらせるだけでなく、ご利用者様と共に行い、支援の1つとして提供できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナ禍の為、家族からの支援は受ける事はできていないが、コロナ前は、月1回は家族と面会する機会を設け、疎遠にならないように支援していた		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は行きつけの美容院や自宅への一時帰宅などの支援を行ってきたが、現在はできていない。支援の再開に向けて検討中	現在、利用者の外出は、基本的には自粛である。家族との面会も窓越しで行ったり、ビデオ通話を利用してリモートで行っている。取組みの再開に向け、コロナ収束を待っている状況である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の言動や様子に注意しながら、席替えや、ドライブ中の座席の配置などを考慮しながら支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も野菜等の差し入れをして下さったり、イベントなどに声を掛けて下さるご家族様が多々見られる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様が満足した生活を送れるように、日常生活の何気ない会話から、支援に繋げられるように職員は努めている	アセスメントや、利用者と職員との日常的な関わりから、思いや意向を把握するよう努めている。把握した思いや意向は職員が共有し、日常の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を全て奪うのではなく、可能な限り、在宅生活のリズムを崩さず、支援するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状態や残存能力を活かし、可能な限り自立した生活が送れるように、ご利用者様の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議、全体会議を行い、ご利用者様の状態の把握や情報の共有を行い、ケアプランに反映している	介護計画は3ヶ月毎に更新されている。更新時はモニタリングを行い、把握した思いや意向・利用者の状態をふまえ、会議の中で検討し、利用者本位の介護計画作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の何気ない言葉や言動に注意しながら、記録に残し、カンファレンス等で実践に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせ、可能な限り、突発的な要望にも応えられるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かしながら、本人が暮らしを楽しめる環境を整えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医にはいつでも相談できる体制を整えている。また、市外の認知症専門外来に受診をしたり、出来る限り薬の利用を最小限にする支援をしている	医療機関と適切に連携し、利用者は安心して受診できる体制がある。専門診療科への受診は、原則家族対応であるが、ホームで対応することもある。正看護師の配置もあり、日常の健康管理への不安はない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看を1名配置しており、日常生活での健康管理が行えている。また、体調不良や身体に異常があった場合は、併設されているショートステイの看護師にも相談できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医にいつでも相談できる体制を整えている。また、入院時には病院のソーシャルワーカーと連携を図り、早期に退院できるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来るケアには限度があり、身体介護がメインになった方への介護と認知症介護の両立は難しいのが現状である。次の段階にスムーズに移れるように要介護3になった時点で、特養への申し込みを家族には勧めている。	終末期支援に対するホームの方針は明確になっており、グループホームとして出来る範囲での支援が提供されている。基本的に看取りは行わず、利用者にとって適切な施設への移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を過去に受けてはいるが、受けていない者もいる為、今後、再受講を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急避難場所が変更になった為、万が一施設から非難しなくてはならなくなった場合は施設から少し距離のある地点まで移動しなければならず、現在避難方法を模索中	定期的に、併設のショートステイと合同で避難訓練を行っている。地域の防災会議に出席し、運営推進会議でも災害発生時には地域の協力が得られるよう、体制づくりに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	BPSDに対し、問題としてとらえるのではなく、その背景に何があるのかをまずは考え、本人を尊重した声掛け、対応を行うように努めている	職員は利用者の尊厳を大切にし、日常の支援では不適切な対応がない様に努めている。権利擁護に関する研修はeラーニングで行われており、日常のケアに活かされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に応じた支援を可能な限り、柔軟に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの特性を生かし、時間に縛られず、個々のペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者は毎朝、職員と一緒に化粧をしたり、外出の際は服を選んだりする機会を設けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回ある調理では何が食べたいかを入居者に聞き、メニューに取り入れるなど、楽しみなメニューになるように企画をしている	食事は併設のショートステイから配食されている。利用者の希望を聞き、月に2回はリクエストに応じている。食材として、庭の菜園で収穫した野菜が使われることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今年度より管理栄養体制加算を算定し、管理栄養士と連携を図り、栄養面でのケアも充実できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週歯科衛生士による口腔ケアを受け、口腔内の清潔の保持を行い、食後の口腔ケアは職員が仕上げを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、リハビリパンツやオムツに頼らず、本人の状態等の観察や職員間の情報の共有を行いながら、最小限の排泄用品の使用でおさまるように、失禁予防のトレーニングなども行っている	利用者の状態にもよるが、トイレでの排泄を基本とした支援が提供されている。排泄介助についての研修には動画も使用され、職員は理解を深めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の観察や、散歩、軽運動による蠕動運動などを促進し、なるべく薬に頼らない対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は固定せず、本人の要望に応じて柔軟に対応している。また、本人の身体状況に応じてショートステイの機械浴も利用している	入浴機会は週に3回あり、自立度の高い利用者に限られるが、夜の入浴も可能である。利用者の意向を大切に、身体状況に配慮した上で快適な入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、日中の運動量や、本人が不安にならない様な環境づくりを心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	地域の薬局と連携し、ご利用者様は居宅療養管理指導を受けながら生活をしており、職員も薬について薬局にすぐに相談できる環境が整っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最近入所された方は、晩酌が日課であり、焼酎を本人の状態に合わせて提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出支援には自粛しているが、本人の強い希望もあり、お盆は何年かぶりにお墓参りに行ってきた。	コロナ下の現在、外出は自粛しているが、日々の散歩は継続しており、近隣住民との交流機会となっている。外出支援再開に向け、コロナ収束を待っている状況である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出し、買い物をする機会が無い為、買う楽しみを提供する為に、地域の店に依頼をし、移動販売車に来てもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じ、家族に相談しながら、柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では利用者同士の人間関係や体調面に配慮しながら、席替え等を行っている。また、壁紙は季節感を取り入れた物を作成し、掲示している	コロナ下であり、感染防止対策として夜間帯に手すりなど手の触れる場所を消毒し、清潔を保っている。利用者が落ち着いて過ごせるよう、体調や利用者同士の関係性を考慮し、席の配置にも工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では行動に縛られる事なく自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の様子は本人と家族にお任せし、本人が居心地の良い空間となるようにしている	居室への家具や調度品の持ち込みは自由であり、利用者が穏やかに暮らせるよう支援している。利用者が職員と共に部屋の片付けや清掃を行い、清潔を保っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の環境は利用者の身長に合わせた作りになっており、自立した生活や、個々のできることを活かせる環境になっている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000042		
法人名	医療法人 双樹会		
事業所名	グループホーム サマリヤの家		
所在地	愛知県新城市矢部字広見55番地1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年4月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2394000042-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和3年11月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で外出支援等の支援はできていないが、少しでもご利用様が充実した生活を送れるように、屋内で出来る支援を模索したり、体力作りに力を入れている。体力作りに関しては、今年度より生活機能向上連携加算を取るよう併設される老人保健施設との連携も図っており、ケアプランにもPTからの指示を取り入れ、今まで以上に体力の維持ができています。

また、地域との連携にも力を入れており、認知症カフェやRUN伴の他、キャラバンメイトとして認知症サポーターの普及にも努めている。地域との交流に関しても、こども園との交流を絶やさない為に紙芝居を作成したり、他施設とリモートで交流したりなど、コロナ禍ならではの交流を図っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際に理念を毎回唱え、実践に繋げられるように、その日のリーダーが現場に指示を出している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としてサマリヤの家の存在を知っていただければ、積極的に地域との交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの一員として他事業所と協力し、認知症サポーターの育成や認知症サポーターのステップアップ講座の開講などを行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より地元の高校に運営推進委員になっていただき、新たなサービスの向上や、取り組みを検討中		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症支援推進委員として、市役所や地域包括支援センターだけでなく、その他関連機関とも連絡を取り合い、サービスの向上に努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から、玄関の施錠は行っておらず、気軽に外まで出れる環境である。また、身体拘束を行わないように対策委員会を設け、定期的に勉強会を行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を定期的に行う機会を設け、虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を利用されている方はいらっしゃるが、後見人制度に関して学ぶ機会は過去には研修に参加したりしていたが、最近では設けていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約を交わす際は、家族が納得いくように説明を行い、利用者には不安等が無いように説明をし、だまされ生活するのではなく、出来る限り納得した上で生活していただけるように説明する		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族の意見を運営に反映させ、運営推進会議の場で、推進委員に周知していただき更なる質の向上に努めている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場からの意見を反映させるために、管理者が代表者へ意見を言う機会を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が現場の意見を直接聞く機会はないが、管理者から本部に直接意見を伝える機会はある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、コロナ禍の為、リモートでの研修のみ参加している。コロナが落ち着いたら、施設内研修から再開していく予定である		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、コロナ禍の為、連絡協議会の会議もリモートで行っており、職員同士が直接交流する機会が無いが、管理者同士は意見交換などが出来ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が納得して入所されるのが理想的だが、そういった方は少ない。入ってから本人様が居心地の良い生活を送れるように空間作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の声に耳を傾け、家族の要望を聞き、サービスに繋げられるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みの時点で本人様が必要とするサービスがなんなのかをご家族様と一緒に考え、自施設への入所を勧めるだけでなく、他のサービスも提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上げ膳据え膳の生活ではなく、できることを自身で行って生活できる支援を提供する為、家事などを業務として終わらせるだけでなく、ご利用者様と共に行い、支援の1つとして提供できるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在コロナ禍の為、家族からの支援は受ける事はできていないが、コロナ前は、月1回は家族と面会する機会を設け、疎遠にならないように支援していた		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は行きつけの美容院や自宅への一時帰宅などの支援を行ってきたが、現在はできていない。支援の再開に向けて検討中		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の言動や様子に注意しながら、席替えや、ドライブ中の座席の配置などを考慮しながら支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も野菜等の差し入れをして下さったり、イベントなどに声を掛けて下さるご家族様が多々見られる		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様が満足した生活を送れるように、日常生活の何気ない会話から、支援に繋げられるように職員は努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活を全て奪うのではなく、可能な限り、在宅生活のリズムを崩さず、支援するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の身体状態や残存能力を活かし、可能な限り自立した生活が送れるように、ご利用者様の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニット会議、全体会議を行い、ご利用者様の状態の把握や情報の共有を行い、ケアプランに反映している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の何気ない言葉や言動に注意しながら、記録に残し、カンファレンス等で実践に反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせ、可能な限り、突発的な要望にも応えられるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活かしながら、本人が暮らしを楽しめる環境を整えている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医にはいつでも相談できる体制を整えている。また、市外の認知症専門外来に受診をしたりし、出来る限り薬の利用を最小限にする支援をしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看を1名配置しており、日常生活での健康管理が行えている。また、体調不良や身体に異常があった場合は、併設されているショートステイの看護師にも相談できている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医にいつでも相談できる体制を整えている。また、入院時には病院のソーシャルワーカーと連携を図り、早期に退院できるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで出来るケアには限度があり、身体介護がメインになった方への介護と認知症介護の両立は難しいのが現状である。次の段階にスムーズに移れるように要介護3になった時点で、特養への申し込みを家族には勧めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命講習を過去に受けてはいるが、受けていない者もいる為、今後、再受講を検討している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急避難場所が変更になった為、万が一施設から非難しなくてはならなくなった場合は施設から少し距離のある地点まで移動しなければならず、現在避難方法を模索中		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	BPSDに対し、問題としてとらえるのではなく、その背景に何があるのかをまずは考え、本人を尊重した声掛け、対応を行うように努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に応じた支援を可能な限り、柔軟に行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの特性を生かし、時間に縛られず、個々のペースに合わせた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性入居者は毎朝、職員と一緒に化粧をしたり、外出の際は服を選んだりする機会を設けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	月に2回ある調理では何が食べたいかを入居者に聞き、メニューに取り入れるなど、楽しみなメニューになるように企画をしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	今年度より管理栄養体制加算を算定し、管理栄養士と連携を図り、栄養面でのケアも充実できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎週歯科衛生士による口腔ケアを受け、口腔内の清潔の保持を行い、食後の口腔ケアは職員が仕上げを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限り、リハビリパンツやオムツに頼らず、本人の状態等の観察や職員間の情報の共有を行いながら、最小限の排泄用品の使用でおさまるように、失禁予防のトレーニングなども行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の観察や、散歩、軽運動による蠕動運動などを促進し、なるべく薬に頼らない対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は固定せず、本人の要望に応じて柔軟に対応している。また、本人の身体状況に応じてショートステイの機械浴も利用している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、日中の運動量や、本人が不安にならない様な環境づくりを心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	地域の薬局と連携し、ご利用者様は居宅療養管理指導を受けながら生活をしており、職員も薬について薬局にすぐに相談できる環境が整っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	最近入所された方は、晩酌が日課であり、焼酎を本人の状態に合わせて提供している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出支援には自粛しているが、本人の強い希望もあり、お盆は何年かぶりにお墓参りに行ってきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍で外出し、買い物をする機会が無い為、買う楽しみを提供する為に、地域の店に依頼をし、移動販売車に来てもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じ、家族に相談しながら、柔軟に対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では利用者同士の人間関係や体調面に配慮しながら、席替え等を行っている。また、壁紙は季節感を取り入れた物を作成し、掲示している		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では行動に縛られる事なく自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の様子は本人と家族にお任せし、本人が居心地の良い空間となるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の環境は利用者の身長に合わせた作りになっており、自立した生活や、個々のできることを活かせる環境になっている		